

埼玉県下水道公社職員の一日の仕事を紹介します。 (事務職編)

本社総務課の場合



◆朝の打合せ

理事長以下、全職員が順番で1分間スピーチをします。

内容は、世間での旬な話題や個人的な出来事まで様々。人前で話す訓練に役立っています。

スピーチの後は、各課の行動予定を周知、また、公社全体の行事予定等も報告し、情報共有を図ります。



◆先輩 質問です！

わからないことがあったら、すぐ確認！

経験豊富な先輩がすぐに答えてくれます。

更に、自分でも確認することで日々研鑽に努めています。

こうして、職員間でコミュニケーションを取りながら、より良い職場環境は作られます。



◆デスクワーク

事務職ですので、デスクワークが主となります。ほぼパソコンと睨めっことなることが多いので、1時間に1回は背筋を伸ばし、目を休める事を推奨しています。

総務課の分掌事務は、人事労務関係、経理関係、給与福利厚生関係が主となっていますが、県議会対応、外部監査、関係機関からの調査など多岐にわたっています。



◆理事会・評議員会

定例の理事会及び評議員会は、公社の根幹となる事業活動の最高決定機関となります。これには、事務職・技術職関係なく本社職員全員で対応します。環境、経理、行政のオーソリティーが理事・評議員となっていますので、招集、設営、資料作成、進行にも慎重を期します。開会時間は1～2時間ですが、とても緊張感のある時間となります。

支社庶務担当の場合



◆朝の打合せ

全職員が集まり、その日の予定や作業、その他連絡事項を伝え、情報の共有化を図っています。

庶務担当としては、施設見学者や来客、入札、会議及び打合せの予定、職員の休暇などの情報を全職員に伝えます。

◆デスクワーク

支社の庶務担当も、メインはデスクワークです。

写真はホームページの改修作業をしているところですが、契約事務・支払い事務・サービスや給料の取りまとめ・旅費の計算・物品（文房具等）の管理・施設見学の受付・文書の收受などなど、仕事は尽きることがありません。

◆デスクワーク以外のお仕事

電話対応は庶務担当だけの仕事ではありませんが、他の担当は現場に出ていることが多いので、デスクワークがメインの庶務担当が対応することが必然的に多くなります。

関係者からだけでなく、一般の方からの電話もあるため、明るく爽やかに対応するよう心がけています。

他にも建物内の掲示物等の管理もしています。

◆その他

毎日の仕事ではありませんが、職員会議内での発表や普及啓発に係る仕事もあります。

どちらも、庶務担当だけの仕事ではありませんが、実施するにあたり、準備の段階から携わります。

特に普及啓発は公社をあげて取り組んでいる事業なので、市等のイベントに出展する際には、その準備にかなり力を入れています。

出展当日も来場されたお客さまに満足していただけるように、精一杯の「おもてなし」をしています。

“先輩からのメッセージ”



◆プロフィール

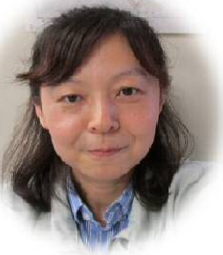
所属：本社
担当：総務課（事務職）
氏名：鶴澤 悌
入社：平成9年
卒業：経済学部経済学科

◆メッセージ

いつのまにか入社20年目をむかえ、この寄稿を機に社会人として成長しているのかを改めて考えてしまいました。

まず、“下水道”というのを日常で意識することはまったくありませんでしたが、近年になり川がきれいになっているというニュースや記事を見ると、下水道が大きな役割を果たしているということ、下水道の存在の大きさを改めて実感しました。

いままで“下水道”に携わった多くの先輩たちの努力が、何十年もかけてようやく成果として目に見えてきたことにほんとうに誇らしく思うとともに、これからも我々が若手とともにそれを引き継いでいきたいと思っています。事務職として、職員が少しでも働きやすい環境を作り、下水道を通して県民の皆さんの幸せにつながるよう努力していこうと思っています。



◆プロフィール

所属：中川支社
担当：庶務担当（事務職）
氏名：吉田 真帆
入社：平成8年
卒業：文理学部史学科

◆メッセージ

早いもので、入社してから二十年近く経ってしまいました。大学の専攻とは全く異なる分野に就職し、アルバイトの経験も乏しかったので、「自分に勤まるのだろうか」と非常に不安だったことを昨日のこのように思い出します。

電話対応から始まり、仕事の進め方を諸先輩方に親切丁寧に、時には厳しく教えていただき、現在まで勤めることができました。また、入社三年目で結婚し、翌年には子供にも恵まれ、その子も今では中学生になりました。その間、家族や周囲の方々の協力を得て、子育てと仕事を続けてこられたことに心から感謝しています。

そのような経験から、公社は女性が働きやすい職場だと思いません。子育ても仕事も両立させたい女性（当然、男性も！）が増えることを期待しています。